



先生は頼れる 心強い存在

沼田東学童クラブ保護者会長
小菅美佳 さん（西原新町）

学校休校を聞いたときは、学童クラブの開所状況や子どもの心のケアなど先の見えない不安を抱えながら迎えに行き、先生に相談していました。私は保育教諭で職場へ2人の子どもを連れて行きながら、週の半分程度、学童クラブを利用しました。初めのうちは、子どもは朝から学童クラブで過ごすことを戸惑う様子でしたが、兄弟で仲良く通い、毎日友人や先生と会うことで穏やかに過ごせていました。

学童クラブは子どもや保護者が安心できるように、また、学校と連携を取って充実した時間を過ごせる配慮をしてくれました。おかげで子どもも楽しく通え、私も安心して仕事に取り組むことができました。どのようなときでも子どもと保護者を笑顔で迎えてくれる先生は、悩み事なども相談できる心強い存在です。



保護者に向き合う 学童に感謝

沼田東第二学童クラブ保護者
本多奈緒美 さん（東原新町）

小学生と保育園に通う2人の子どもを育てながら、夕方まで介護施設で管理栄養士をしています。

学校が休校になると聞いたときは、「仕事はあるし、子どもはどうなるんだろう」と不安になりましたが、学童クラブが受け入れてくれるということで、週4回は朝から利用しました。子どもは1日を過ごす場所が変わりましたが、夕方、迎えに行くと普段と変わらず元気な姿を見せてくれました。おかげで安心して仕事ができ、学童クラブに感謝しています。

先生は大変な中でも保護者にしっかり向き合い対応してくれました。私たちにも疲れや不安も見せないでいつでも優しく明るく接し、こういった振る舞いがあるから子どもも元気でいられるんだろうなと感じています。

地域に定着した学童クラブに

沼田東小学校教頭 下田明子 さん

共働き家庭が増え続ける今日、沼田東小学校（松井秀幸校長・児童数 263 人）の子どもたちの多くが、下校後に学童クラブを利用しています。本校は各学童クラブとの連絡調整や情報交換など、日頃から連携を図っています。

2月末、市内小中学校の休校に併せて学童クラブの開所が決まり、感染防止などさまざまなことに気を配りながら、朝から子どもたちを受け入れてくれた学童クラブには本当に感謝しています。

休校中は学童クラブへ出向き、子どもたちや支援員さんと直接会って様子を確認するようにしました。元気で過ごしている子どもたちを見て安心しました。学校で過ごしていたときのように規則正しい生活習慣を維持し、不安にならないように寄り添ってくれたことをはじめ、子どもたちが学校の課題や宿題にも朝から取り組んでいる姿を見て、学童クラブは学びの場としてもサポートしてくださっていると感じました。

沼田東学童クラブと沼田東第二学童クラブは本校の敷地内にあるため、両学童クラブを利用している子

どもたちが校庭で遊んでいるときなどには声を掛けたりと、日常的なつながりを多く持つことができました。両学童クラブはハンドベルの演奏に取り組み、休校中には本校教職員を招待して練習の成果を披露してくれました。6年生は卒業を目の前に休校になりさみしい思いをしたと思いますが、学校とはまた違った頑張る姿を見ることができて嬉しかったです。

コロナ禍を機に、学童クラブは子どもたちにとって安心して過ごすことができる大切な居場所であることを再認識しました。これからも連携に力を入れながら、地域に定着していくことを願っています。



教職員らを前にハンドベルの演奏を披露

学童クラブと共に歩む人々

学童クラブは保護者や学校をはじめ、地域の人や各種団体などさまざまな人たちが関わり成り立っています。



沼田東学童クラブ卒業生
小林藍 さん（東原新町）

居心地よい思い出の場所 今では支援員に

沼田東学童クラブで1年生から5年生までを過ごし、姉2人もお世話になりました。退所してからよく顔を出したり、中学校の卒業が近づくと、同学童クラブを利用した同級生たちとあいさつに行ったりと、居心地のよい思い出の場所になっています。

今年3月に高校を卒業し、心理カウンセラーを目指すため大学へ進学。この頃、同学童クラブから支援員としてアルバイトの話をもらい、お世話になった人たちのために頑張ろうと週2回引き受けました。何より子どもたちがかわいく、触れ合う時間が楽しいです。

併せて、新型コロナウイルスから子どもを守ることを意識し、会話や声掛けで子どもの気持ちが明るくなるように、おにごっこで駆け回ってストレス発散できるようにと、自分らしくできることに挑戦しています。先生たちからは今は共に働く仲間として気に掛けてもらい、温かい気持ちになります。



中学校卒業前（写真）右・届けたイチゴを記念撮影／左・飛沫対策をして芸をする

子どもの笑顔に励まされ、芸をできることに感謝

4年前から市内学童クラブを巡回。イベント中止、施設にも行けない状況が続いていましたが、夏には沼田東学童クラブなどを訪問し、自分の体の前に透明のビニールシートを貼って飛沫対策をしながら、子どもたちの前で芸をすることができました。

今年5月、SNSを通してある依頼を受けました。

いちご農家を支援するため、国から支給された給付金を使ってイチゴを買います。地域の子どもたちに届けてもらえますか――。

私のファンのお父さんからでした。私も関わり続けている施設や子どもたちが気になり、何か力になりたいと思っていたので依頼を引き受けました。市内学童クラブなど、県内外7施設にイチゴを届けることができました。

5月20日、沼田東学童クラブと沼田東第2学童クラブを訪問。「あっしが来たよ」「イチゴを持ってきたよ」と呼び掛けると、皆、喜んで迎えてくれました。芸ができない状況になり改めて、子どもたちの笑顔に支えられ励まされていると感ずることができました。



（写真）右・届けたイチゴを記念撮影／左・飛沫対策をして芸をする

1983年生まれ、本市出身。県内の保育施設や学童クラブ、子ども向けのイベントなどでお笑い芸人として活動している。自らが紙芝居の一部になる「人間紙芝居」を得意芸としている